



萩観築  
南光内

(昭和廿八年改版)

萩市役所

ミズマ



史蹟名勝其の地

番号	名称	番号	名称
1	高野山神社	15	花月堂
2	笥之江墓所	16	民家遺蹟集
3	天徳寺址	17	日有野神社
4	三江橋	18	吉田神社
5	伊予守	19	松山神社
6	本陣	20	山手神社
7	松山神社	21	山手神社
8	松山神社	22	山手神社
9	松山神社	23	山手神社
10	松山神社	24	山手神社
11	松山神社	25	山手神社
12	松山神社	26	山手神社
13	松山神社	27	山手神社
14	松山神社	28	山手神社



# 萩市観光案内

## 萩市の概説

萩市は阿武川が日本海に注ぐ松本川、橋本川の二支流に抱かれ、三角洲を中心に発達した城下街である。慶長九年(一六〇三年)毛利輝元卿(三男)が指月山に萩城を築いて以来、幕末に至る三百年間防長兩國の首都として繁栄を続けたが、維新後一時衰退した。明治二十二年町村制施行により萩町となり、昭和七年七月一日市制を布き、山陰本線的全通、開港に伴う物資の集散、漁港の活用等によつて、今や山陰沿岸における重要都市として発展し、人口四万二千余を有し、近代都市として目覚ましい建設の歩を進めている。

## 史蹟指定

松下村塾、吉田松陰幽囚旧宅、伊藤博文並、木戸孝允旧宅、旧萩藩御船藏、反射炉、明倫館水練池と館碑、有備館、萩城址

## 天然記念物指定

明神池、笠山橋自生北限地、木部の大センダン

## 國寶指定

志都岐山神社所蔵延吉、光房銘三振太刀、大昭院所蔵赤童子像、南明寺所蔵本尊觀世音菩薩、脇土千手觀音の二像

藩士は多く下関方面に赴いて警備につき、留守を守る婦女子が中心となつて、海辺に土塼を築いて女性の心意氣を示したお台場こそ天下に名高い女台場である。



明倫館水練池

## 藩賢明倫館址

藩主吉元卿(第八代)が享保四年(一三三四年)萩城第三廓内に建てられたが、敬親卿は嘉永二年(一八〇四年)江向に移築拡張せられ、その規模結構は壮大で、和漢洋の學術を研修せしめ天下にその比を見ず

## 明倫館水練池と館碑

明治維新を翼賛した国家有為の人材多くこの学館から出た。廢藩後解体したが今尚はその遺蹟が残っている。

館聖廟の後に池を掘つて水騎の練習場とし、又用水にも用いた。東西四〇米、南北一六米、深さ二米日本最古のプールと称せられている。館碑は新旧二基あつて、一は元文六年(一三二二年)山県周南、一は嘉永二年(一八〇四年)山県太華の撰文で、館造立の趣旨、館の結